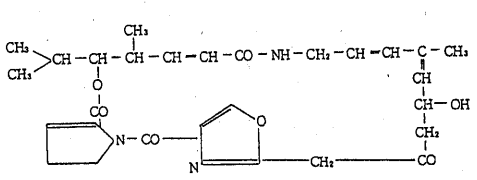
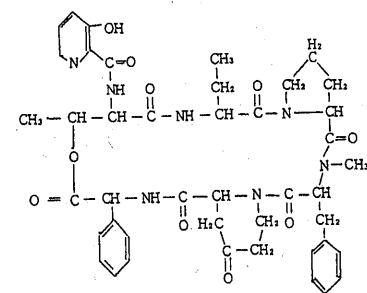
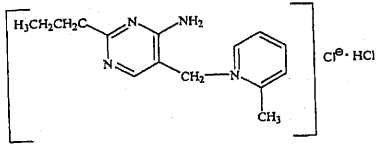
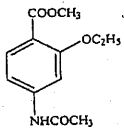
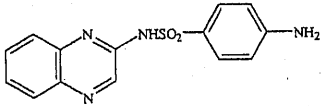


抗生物質の名称		バージニアマイシン					
種類		ストレプトグラミン		化学式			
				ファクターM: C ₂₈ H ₃₅ N ₃ O ₇		ファクターS: C ₄₃ H ₄₉ N ₇ O ₁₀	
同一系統の人体用抗生物質 (全て記載) 日本における使用はない。 プリスチナマイシン (フランス)、キヌプリスチン+ダルフォプリスチン (米国、EU、オーストラリア)。							
区分 第3欄				規制区分 劇物に該当しない			
構造式							
<p style="text-align: center;">[Factor M]</p> 				<p style="text-align: center;">[Factor S]</p> 			
由来 <i>Streptomyces virginiae</i>				作用機序 タンパク合成阻害			
抗菌スペクトル グラム陽性菌 (黄色ブドウ球菌、枯草菌、クロストリディウム・ペルフリンジエンス)							
対象飼料および添加量 g 力価/トン							
レイヤー	ブロイラー		豚		牛		
幼中すう	前期	後期	哺乳期	子豚期	哺乳期	幼齢期	肥育期
5-15	5-15	5-15	10-20	10-20			
交差耐性に関する情報 本剤耐性菌(特にエンテロコッカス・フェシウム)は他のストレプトグラミン系抗生物質にも耐性を示す。しかし、以下の理由から動物の耐性菌とヒトのストレプトグラミン耐性菌とは関係がないと考える：①本菌は通常病原性を持たず動物から人に感染することはない、②本菌種は宿主特異性が高く動物由来の菌がヒトに定着することはない、③本菌種の耐性が in vivo において他の細菌に伝達されたことを示す報告はない。							
人体用医薬品での使用状況： なし							
今後の製造の意思： あり							

抗生物質の名称	アンブ [°] ロリウム・エトパ [°] ベート・スルファキノキサリン (アンブ [°] ロリウム、エトパ [°] ベート、スルファキノキサリンの合剤) : アンブ [°] ロリウム、エトパ [°] ベートは合成抗原虫物質、スルファキノキサリンは合成抗原虫および合成抗菌物質 (抗菌力は極めて弱い)	
種類 : アンブ [°] ロリウム エトパ [°] ベート スルファキノキサリン	ピロリジン系化合物 化学合成物 スルフォアミド系(サルファ剤)	化学式 C ₁₄ H ₁₉ ClN ₄ ·HCl (アンブ [°] ロリウム) C ₁₂ H ₁₅ NO ₄ (エトパ [°] ベート) C ₁₄ H ₁₂ N ₄ O ₂ S (スルファキノキサリン)
<p>同一系統の人体用抗生物質 (全て記載)</p> <p>アンブ[°]ロリウム、エトパ[°]ベートには無い。スルファキノキサリンは同一系統 (サルファ剤) の人体用合成抗菌剤がある (スルファジアジン、スルファジメトキシ、スルファメトキサゾール、スルファモノメキシ、スルファイソキサゾール)。しかし、スルファキノキサリンの抗菌作用は極めて弱く、その抗コクシジウム(原虫)作用と抗ロイコチトゾーン(原虫)作用により抗原虫剤としてのみ有用性がある。</p> <p>人体用のサルファ剤は、昭和30年代に発売され、その後サルファ剤より優れた抗菌剤が開発されたことから、現在では使用量が減少し、有用性も少なくなっている (人用抗菌剤市場の0.8% : 厚生労働省医政局 薬事工業生産動態統計年報 平成12年)。</p>		
区分 第1欄	規制区分 劇薬に該当しない	
<p>構造式 : アンブ[°]ロリウム</p> <p>(1-(4-amino-2-n-propyl-5-pyrimidinylmethyl)-2-picolinium chloride hydrochloride)</p>  <p>C₁₄H₁₉ClN₄·HCl : 315.25</p> <p>エトパ[°]ベート</p> <p>Methyl-4-acetamido-2-ethoxybenzoate</p>  <p>C₁₃H₁₅NO₄ : 237.26</p> <p>スルファキノキサリン</p> <p>Sulfaquinoxaline (2-sulfanilamido quinoxaline)</p>  <p>C₁₄H₁₂O₂S : 300.34</p>		
由来 : アンブ [°] ロリウム、エトパ [°] ベート、スルファキノキサリンはともに化学合成物	<p>作用機序 : アンブ[°]ロリウム (抗アミン作用)</p> <p>エトパ[°]ベート (PABA 拮抗作用)</p> <p>スルファキノキサリン (PABA 拮抗作用)</p> <p>PABA : para-amino-benzoic acid</p>	
<p>抗菌スペクトル : アンブ[°]ロリウムとエトパ[°]ベートは抗コクシジウム (原虫) 作用を有するが、抗菌作用は無い。スルファキノキサリンは抗コクシジウム (原虫) 作用と抗ロイコチトゾーン(原虫)作用を有する。ロイコチトゾーン病は届出伝染病であり、毎年夏期に産卵鶏 (食卵に供することから、投薬できないことによる) で発生が認められており、生産性を著しく低下させている。ヒナには病原性が特に強いことか</p>		

ら、現在は本品を夏期の採卵鶏の育成時期（10 週齢まで）および同期のブロイラーに使用することで、予防している。従って、抗コクシジウム作用だけでなく、抗ロイコチゾーン作用を有する本品の有用性は非常に高い。一方では、極めて弱い抗菌作用しか示さないことから、スルファキノキサリンの抗菌スペクトルのデータは無い。

「ちなみに、ロイコチゾーン病の我が国の発生は、報告されているだけで、平成 12 年、9 農場、16,081 羽に達し、これは鶏の届出伝染病の第二位に位置している（家畜衛生週報）。鶏に本病が発生した場合の経済的被害は甚大で、多頭羽飼育の現状では、予防に勝る方法はない。」

スルファキノキサリンの抗菌作用については、下記の点から同系統の人体用のサルファ剤に影響しないと考えられる。

- ① スルファキノキサリンの大腸菌を用いた抗菌作用はスルファメトキサゾールの 1/10～1/40 と極めて低い。
- ② スルファキノキサリン 100mcg/ml（指示相当濃度 60mcg/ml）を含有する腸内容物は抗菌作用を示さなかった。
- ③ 本品を指示量添加した飼料およびその給与鶏の腸内容物は抗菌力を示さなかった。
- ④ サルファ剤耐性大腸菌を排泄する鶏群（初生雛）に、指示濃度添加飼料を給与し 3 5 日間観察したが、耐性大腸菌の排泄率に何ら著しい変化は認められなかった。また、分離した耐性大腸菌 267 株について耐性マーカーの伝達性を検討したが、いずれもその耐性を伝達し得ず、既知の耐性伝達因子（Rプラスミド）をもつ菌を用いても伝達性は付与し得なかった。
- ⑤ 雛をアイソレーター中で無菌状態でフ化し、感受性大腸菌を感染し、感受性大腸菌のみを保有する鶏群を作出した。この鶏群に本品の指示濃度を添加給与し、耐性大腸菌が発現するかどうか検討したが、耐性大腸菌の発現は認められなかった。
- ⑥ 感受性大腸菌のみを保有する鶏群に耐性大腸菌を感染させ、本品の指示濃度を添加給与したが、耐性大腸菌の排泄率に細菌学的に有意な影響を及ぼさなかった。

（以上、動物医薬品再審査資料より）

対象飼料および添加量： g 力価/トン

レイヤー	ブロイラー		豚		牛		
	前期	後期	哺乳期	子豚期	哺乳期	幼齢期	肥育期
アンプロリウム 100	アンプロリウム 100	アンプロリウム 100					
エトパベート 5	エトパベート 5	エトパベート 5					
スルファキノキサリン 60	スルファキノキサリン 60	スルファキノキサリン 60					

交差耐性に関する情報：アンプロリウム、エトパベートに抗菌作用はない。スルファキノキサリンは極めて弱い抗菌作用しか示さない。

スルファキノキサリンの指示添加濃度では、耐性伝達性は認められていない。

人体用医薬品での使用状況：使用なし

今後の製造の意思：あり（販売）

抗生物質の名称	サリノマイシンナトリウム						
種類	ポリエーテル系			化学式	C ₄₂ H ₆₉ O ₁₁ Na		
同一系統の人体用抗生物質（全て記載） なし							
区分	第1欄			規制区分	医薬用外劇物		
構造式							
由来	Streptomyces albus			作用機序	イオン輸送作用		
抗菌スペクトル グラム陽性菌・・・ブドウ球菌、クロストリジウム 鶏コクシジウム							
対象飼料および添加量							g 力価/トン
レイヤー	プロイラー		豚		牛		
幼虫すう	前期	後期	哺乳期	子豚期	哺乳期	幼齢期	肥育期
50	50	50				15	15
交差耐性に関する情報 人体用抗菌性物質との交差耐性があるとの報告はなし							
人体用医薬品での使用状況 なし							
今後の製造の意思 あり							

抗生物質の名称		センデュラマイシンナトリウム						
種類		ポリエーテル系		化学式： C ₄₅ H ₇₆ O ₁₆ Na				
同一系統の人体用抗生物質（全て記載） なし								
区分		第1欄		規制区分				劇物に該当する
構造式								
由来		<i>Actinomadura roseorufa</i>		作用機序				細胞壁機能障害
抗菌スペクトル グラム陽性菌（ブドウ球菌、クロストリジウム） コクシジウム								
対象飼料および添加量							g 力価/トン	
レイヤー	ブイラー		豚		牛			
幼中すう	前期	後期	哺乳期	子豚期	哺乳期	幼齢期	肥育期	
25	25	25						
交差耐性に関する情報 細菌の交差耐性に関する情報はない。 本剤耐性のコクシジウムは他のポリエーテル系抗生物質にも耐性を示す。								
人体用医薬品での使用状況： なし								
今後の製造の意思： あり								